

あとがき

1989年（平成元年）以来、下記の各版の『日本語教材』を作成し、留学生（日本国内の大学）や中国の大学などに、寄贈しました。

- ①1989年から8年間発行した「日本語学習情報・季刊誌『日本』」
- ②1995年の「日本語精読教材【日本】」
- ③1997年～2004年の「大学用・日本語教材【日本】（上、下）」
- ④2004年～2005年の「新版・日本語教材【日本】（上、下）」
- ⑤2009年～2011年の「MP3付・日本語教材【日本】（上、下）」
- ⑥2012年の「最新版・日本語教材【日本】」
- ⑦2013年の「改訂版・日本語教材【日本】」
- ⑧2014年の「日本語教材【新日本概況】」（252頁）

これらを基に、2016年（平成28年）9月に、「デジタル版・日本語教材【『日本』という国】」を作成し、インターネットで公開しました。その後、2回更新しました。

本書は、元号が新しくなった2019年（令和元年）8月時点で、直近のデータを加えて、内容を書き直し、「改訂版」として再編集したものです。

.....

《注》国名の「日本」の読み方は、「にほん」と「にっぽん」があります。

「にっぽん」で統一する動きもありましたが、どちらも広く使われているため、どちらか一方に統一する必要はない、というのが政府の考え方です。

本書では、表紙の『日本』だけ「にほん・にっぽん」のルビを付け、文中では、一般に使われているルビを付けました。

国名の読み方が二つあるのは、「日本」（にほん・にっぽん）だけです。

.....

◎ 本書の執筆では、朝日新聞の「記事」を参考にしたほか、取材や資料提供では、居山静代、上山民栄、富森叡児、茅場康雄、升田淑子、大島富朗、秋田武、工藤昌伸、小原健譽、内藤隆、小林保治の各氏らのご協力を得ました。

◎ 参考・引用文献は、「用語の手引き」（朝日新聞社）、文部科学省等の調査、「敬語の指針」（文化審議会答申）など。

《「写真・イラスト」は一部《大森和夫撮影の表紙「富士山」、朝日新聞社提供（一章六節）を除いて、Googleの「無料写真イラスト」から借用致しました》

2019年（令和元年）9月

大森和夫・大森弘子